

社会福祉法人・学校法人 イエス団



イエス団報

Jesus band news

2015/12/24

18

再刊 18 号

- 今井 鎮雄先生を偲ぶ
 - イエス団の輪っ
宇野 豊さん
竹垣 美紀さん 杉本 知佐さん
松村 香菜子さん 松居 太開さん
 - 研修報告
 - 施設紹介
天使ベビーセンター
愛之園保育園
 - トピックス
ファミリーホーム ハンナ
東兵庫ブロック元年
イエス団第1回全体主任会
豊島神愛館感謝会
此花区子ども・子育てプラザ
新園舎紹介
ぶどうの木保育園
のぞみ保育園
賀川記念館総合研究所紀要の紹介
 - J.B. フェローズ活動報告
 - 表紙写真の解説
 - 編集後記
- 発行：2015年12月24日
発行者：黒田 道郎
編集・発行：
社会福祉法人・学校法人 イエス団
〒651-0076
兵庫県神戸市中央区吾妻通 5-2-20
TEL：078-221-9565
FAX：078-221-9566
<http://www.jesusband.jp>
mail to : honbu@jesusband.jp



ミッションステートメント2009

わたしたちイエス団の実践は、1909年12月24日の賀川豊彦の献身に始まる。
そして、イエスの愛に倣い、互いに仕えあい、社会憂と闘い、新しい社会を目指して
多くの協働者とともに今日まで歩み続けてきた。
この歴史を検証し、働きを引き継ぎ、今、わたしたちはイエスに倣って生きる。

わたしたちは、いのちが大切にされる社会をつくりだす
わたしたちは、隣り人と共に生きる社会をつくりだす
わたしたちは、違いを認め合える社会をつくりだす
わたしたちは、自然が大切にされる社会をつくりだす
わたしたちは、平和をつくりだす

2009年12月24日

社会福祉法人イエス団 第四代理事長
学校法人イエス団 第二代理事長
今井鎮雄先生を偲ぶ

今井鎮雄

いまいしずお

- ・ 社会福祉法人イエス団
第四代理事長 1980-2004
- ・ 学校法人イエス団
第二代理事長 1981-2004
- ・ 神戸YMCA名誉顧問
- ・ 1920年 東京生まれ
- ・ 同志社大学 法学部を卒業
- ・ 2014年 11月 3日
午後7時30分 召天 93歳
- ・ 2003年 兵庫県功労者表彰
- ・ 2007年 総務大臣表彰
- ・ 2009年 神戸市市政功労者表彰
- ・ 2014年 11月 3日
神戸市市政功労者特別表彰追贈



2014年11月3日に召天された今井鎮雄先生を偲ぶ「お別れ会」が2015年2月8日神戸ポートピアホテルで開かれました。

神戸YMCAベルクワイヤーの厳かなハンドベル献奏の中、発起人のおひとりである水野雄二氏（前神戸YMCA総主事、イエス団理事）の司会で始められました。

発起人代表である武田 建氏（関西学院大学名誉教授）の挨拶や、井戸敏三氏（兵庫県知事）、深川純一氏（国際ロータリー第2860地区パストガバナー）、片岡 實氏（ひょうご子どもと家庭福祉財団理事長）、尾崎八郎氏（啓明学院理事長）らが、お別れのことを述べられました。

今井先生が活躍した社会福祉や青少年育成、国際協力など各分野の関係者ら約900人が参列し、惜別の献花を捧げました。



発起人代表の武田 建氏による挨拶

今井鎮雄先生のこと・・・。

賀川記念館 館長・友愛幼児園 園長 馬場一郎

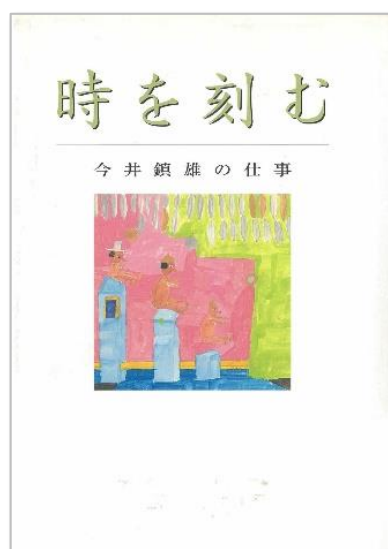
今井鎮雄先生は、1980年から第4代イエス団理事長として2004年まで24年間務めてくださいました。

その間、1988年賀川豊彦生誕100年記念事業、1999年イエス団創立90周年記念事業、そして理事長を退任してからですが、2009年賀川豊彦献身100年記念事業、それぞれの事業の委員長として成功に導いてくださいました。イエス団の困難な変革の時代に行く道を示して下さったリーダーだったと思います。

「時を刻む」～今井鎮雄の仕事～（神戸新聞総合出版センター2006年5月8日発行）の著者の紹介欄には、以下のように書かれています。

～1920年、東京生まれ。旧満州・大連へ転居後中学を終え、同志社大学法学部を卒業。1946年4月、灘購買組合（現、生活協同組合コープこうべ）勤務。1948年4月、神戸YMCAへ転じる。1963年から21年間総主事を務め、現在神戸YMCA顧問、国際ロータリー元理事。長年のYMCA活動を通じて青少年の健全育成や社会福祉に尽力。1953年に日本で初めての肢体不自由児キャンプを手がけたほか、カギっ子対策としての学童保育、里親を求める「愛の手運動」や「いのちの電話」開設、PHD運動など、卓抜した行動力で多彩なボランティア活動を続けている。また、教育にも関心が深く、兵庫県教育委員、県・市社会教育委員、頒栄短期大学学長などを経て、現在は啓明学院理事長などを務める。このほか神戸市社会福祉協議会理事長、兵庫県青少年本部理事長など公職を務め、幅広い政策提言を行っている。

1981年に兵庫県社会賞、1983年神戸市文化賞、1993年神戸新聞平和賞、2000年キリスト教功労者表彰ほかを受ける。～





賀川豊彦献身100年記念式典にて

改めて見てみると、福祉、教育の分野で常に先頭に立ち、また先駆者として弱い立場の人たちに寄り添い、仕事をされてきた人だということがわかります。

そして、その本の中の第5章、「二十一世紀の課題と賀川豊彦の先見性」の項には、以下のような文章が綴られています。

～弱い者であるにもかかわらず、賀川はキリストに捕らわれた。贖罪愛について神の愛の大きな意味を知った。もし私たちが神様からの思召しがあった時、どこまでも、地球の果てまでも証し人となれるだろうか。賀川はその意味において神の証し人として生き、様々な社会の抱える課題を学者として論証してきた。賀川のどの部分をどのように受け止めて、二十一世紀に花を開かせることができるのか。これは後に続く私たちに課された役割ではないかと思ひます。二十一世紀の社会が抱える新たな課題に対して、賀川はすでに応えているのではないか。それを結実させるのが私たちの使命ではないかということを、今日はお話させていただきました。～

今井先生の経歴や書かれたもの、お話されたことを思い起こすことで、その偉大さや人間性が見えてきます。

私には大きすぎて伝説の中の人であり、神戸YMCA時代にも、イエス団においても、とても怖い存在でした。



献身100年記念式典にて日野原先生、野尻先生との鼎談

賀川豊彦献身100年記念事業準備のための初期の頃（2005、2006年ころ）は本部事務局として、村山盛嗣先生とその任に当たりましたが、実行委員長であった今井先生に、計画案を持っていくたびにコテンパンにやつつけられ、悩んで、悩んで、計画を練っていった覚えがあります。コテンパンにやつつけられるということは、今井先生の将来を見据えた、そしてイエス団の理念にかなった鋭い洞察にいつも反論ができなかったということです。

なんという人だろうといつも思いました。どこまで行っても雲の上の存在でありました。



同記念式典にて賀川賞授与

YMCA時代から、今井先生はスタッフの受洗について常に気にかけてくださっていました。受洗したスタッフにいつも握手を求め、祝福をされていました。私の周りにも今井先生と握手をして、「おめでとう」と言われていたスタッフが何人かいました。

当時は神戸YMCAの一線を退き、顧問という立場でしたが、情報を聞きつけては、お祝いに駆けつけて握手をされていました。

私も遅ればせながらイエス団に入った2003年に握手していただきました。叱られていた時の顔ではなく、優しい眼差しでした。信仰に関しては、いつも私たちのことを気にかけて、一番大切なこととして受け止めてくれていたのだと思います。

「時を刻む」の左記文章で今井先生は、「新たな課題に対して、賀川はすでに応えているのではないか。それを結実させるのが私たちの使命ではないか」と言われています。

ミッションステートメント2009にいう、社会をつくっていくために、偉大な先人の「思い」を受け止めていくことが必要だと思います。そういう意味でも、賀川豊彦という人間に出会っていない私たちにとって、今井先生はやはり偉大な先人であり、その「思い」を受け継いでいくことは、私たちに託された大きな仕事ではないでしょうか。これからも、その「思い」をさまざまな判断の糧にしていきたいと思います。



賀川賞授与
賀川豊彦先生の娘の舩井梅子さん、富澤千代子さんと

研修会報告

『この一年の研修会をふり返って』

2015年度は、法人の研修委員会により企画された施設長研修会と、リーダーシップ養成研修会ステップⅡ（昨年度より3年計画で行なわれている）が加わり、これまで企画委員会研修担当チームで行なってきた研修会が大きく変わる年でもありました。

3月には新任研修会、6月にはブラッシュアップ研修会、そしてリーダーシップ養成研修会ステップⅠとして、10月に、これまでの京都東九条から大阪生野にフィールドをかえて行なうこととなりました。

わたしたちイエス団の職員は、MS2009に基づき、「どのような社会をつくりだすのか」そして、「このわたしにできることは何なのか」を考え続けています。その時々、新たな出会いがありました。日常生活から離れ、一人の人として神さまに向き合い、「わたしの隣人とは誰なのか」を真剣に考えました。きっとそれぞれに良い研鑽の時となったことでしょう。わたしたちは一人ではないこと、こんなに素晴らしい仲間が共にいることを改めて思う時でもありました。

もうひとつ、新たな企画として、7月には、キャロル・サックさんをお迎えし、イエス団全体主任会を行うことができました。このことも感謝です。

企画委員会 研修担当チーム チーフ
甲子園二葉幼稚園 園長 田村三佳子

<フォローアップセッション日程>

リーダーシップ養成研修会フォローアップセッション

2016年2月27日

ブラッシュアップ研修会フォローアップセッション

2015年11月28日

新任職員研修会

2015年3月23日（月）～24日（火）

於：六甲山YMCA



参加者とともに

2015年度一泊新任研修会は、自然溢れるキリスト教主義施設の六甲山YMCAで行われました。新任職員69名、講師1名、理事3名、スタッフ5名、先輩職員であるフェローズ10名と、総勢88名が共に祈り、学びました。講師は、シチズンシップ共育企画代表の川中大輔氏です。

研修終了時のある参加者アンケートでは、『期待や不安を共有したり、グループで意見をまとめたり、対話を持つ時間が多かった。どれも自分一人では解決しないことで、意見を言うことはもちろん、人の意見を聞く大切さ、協力することの大切さを改めて感じた。人の意見を聞いて勉強することが多かった。』と記されていました。



グループワーク

開会礼拝では、イエス団理事“神戸イエス団教会”上内鏡子牧師から「まず、はじめに」と題したメッセージを受け取りました。上内先生の持つ小さなろうそくの灯を、各々ろうそくにわかし合い、灯していきます。ラーゲルレイブの「ともしび」は、これから現場に出ていのちと向き合う者たちにとって、貴重な話となったことでしょう。

また上内先生には2日目のセッションで、田村三佳子園長と共に、MS2009の実践を語っていただきました。

また平田義常務理事と共に聖書を開き、「イエスに倣って生きる」とはどういうことなのかを学びました。そして新任職員ひとり一人が「わたしのミッションステートメント2015」を作成しました。



わたしのミッションステートメント2015を発表する受講者

黒田道郎理事長からは、開会礼拝『愛・大切に』の説教を通して、イエス団職員として大切にすべきことを教わりました。

最後は、辞令交付を受け取り理事長と固い握手を交わしました。中身の詰まった、思いあふれる新任職員研修会でした。



辞令交付式

報告：企画委員会 研修担当チーム
杉の子保育園 園長 今村優二

ブラッシュアップ研修会

2015年6月12日（金）～13日（土）
於：六甲山YMCA



参加者とともに

今年も神戸の六甲山YMCAに集まり、6月12（金）～13日（土）の日程で、ブラッシュアップ研修会が、開催されました。

参加人数は、17名と少人数でありましたが、親密度が増しお互い様々なことを語り合えた実りある2日間でした。講師は、シチズンシップ共育企画代表の川中 大輔氏、セッション全体を進めていただきました。

目的、主な流れ・セッション内容は下記のとおりです。

- 目的 ◎今の自分を見つめ、これからの課題を探る
◎現場での体験を出し合い、仲間と共有する
◎「イエス団で働くこと」の意味を理解し、深める

1日目

開会礼拝（奨励：甲子園二葉幼稚園 園長 田村三佳子氏）

セッション1「仲間との出会い」

- 〃 2『これまで』のわたしと仕事
- 〃 3「私の仕事の課題と向き合う」
- 〃 4『いま』の仕事の中のわたし

2日目

朝のつどい（奨励：本部事務局 阿部鞠氏）

セッション5「わたしの仕事とキリスト教」

- 〃 6『これから』のわたしと仕事
- 〃 7「わたしのミッションステートメント2015」

ミッションステートメント発表

閉会礼拝（奨励：平田義 常務理事）

講師の川中氏から参加者に、印象深いメッセージをいただきました。「ミッションステートメント2009について個々の思いを胸に刻んで励んでいってほしい。この研修は、少し立ち止まって、下に根を生やしていく時だということ。堅固な基礎造りを目指すというねらいもあります。参加者が『なぜ働き続けているか。』ということを考えしっかりとし思いを感じとり、そうすることにより上にしっかり伸びていけるといこと。これが浅いと根が崩れる。これは希望が少ないということ。そうではなく深く根を張ることにより、希望をもって一步一步前へ進んでいけるということ。」力強いメッセージでした。



屋外でのセッション

2日間、たくさんの笑顔を見ることができました。この笑顔は、大きな根のはった力とともにそれぞれの職場に、隣人へと伝えられ、活かされていくことと信じます。

最後に、皆さんに伝えたい言葉があります。讃美歌「♪主につくられたわたし」の中の歌詞のことばです。「わたしらしく生きよう 自由に生かされて おとなしくでもなく こどもらしくでもなく ただわたしをつくられた神に应える ただ わたしらしく生きることで」

—わたしらしく生きていきましょう！—

報告：企画委員会 研修担当チーム
くずは光の子保育園 園長 柴田弘子

【研修参加者の声】

様々なセッションを通して“気づき”を学び持ち帰ることができました。その中でも私が楽しかったのは、グループで自然を散策し、自然物をつめてグループのオブジェをつくるセッション。グループ内での役割が自然と分かれ、完成したオブジェは、すごく満足できる出来!!グループで共感し合うことができました。それがセッション1、すごく良かったです。（あと余談…ごはんがおいしい）



オブジェを作るセッションの一場面

この研修を通して、初めて出会った人たちと一日を過ごし、新たな発見、思いの共有ができたこと、普段考えないことを思い返し、書いたり口に出したりすることで、自分の思いや考えを十分に引き出し、見直すことができました。

そして、心に残った言葉は、まとめとして最後に川中さんがおっしゃっていた、「上にのびるのではなく、地に強い根をはること…」この意味を十分に理解できる研修になったかと、振り返り、感じることができました。

くずは光の子保育園 上坂彩夏



わたしのハッピーニュースを発表する受講者

気づき、発見、そして学びの毎日でした。自分自身と向き合ったり、またグループで考え、意見を出し合ったり…。本当にたくさんの経験をさせていただきました。

自分とは違った考えや思い、その中で気付くこともたくさんあり、忘れていた“初心”ということのを再度発見することができたり、今までになかったものを得ることができたりと自分の財産となりました。

“考え続ける”“探し続ける”“求め続ける”本当に奥深く、けれども大切にあり、これからもこの思いを忘れることなく、自分らしく…探求を続けていきたいと思ひます。

そして、子どもたちと喜びを共にしていきたいと強く思ひました。

“みんな違ってみんないい”を心に…。

日々子どもたちを愛し続け、またブラッシュアップ研修で得たことを胸に、これからの保育に活かしていきたいと思ひます。

貴重な1泊2日の研修となりました。

甲子園二葉幼稚園 後藤麻衣

リーダーシップ養成研修会ステップⅠ

2015年10月15日(木)～10月17日(土)

座学：在日韓国基督教教会館(KCC)

フィールドワーク：社会福祉法人愛信福祉会 愛信保育園

社会福祉法人聖和協働福祉会 大阪聖和保育園

NPO 法人サンボラム在日コリアン高齢者支援センター

大池橋サンボラム

NPO 法人うり・ソダン ディサービスさらんぱん

NPO 法人生野協働の家 生野協働の家こさき作業所

昨年度までの3年間は京都東九条のフィールドワークを中心として行ってきた「リーダーシップ養成研修」でしたが、今年度は大阪市生野地域を中心としたフィールドに置き換え学び合いました。

10月15日(木)～17日(土)、東兵庫・兵庫・大阪・京都・四国の5地区から15名の参加者で、1日目のいくつかのセッションを持ちました。



セッションでの座学

その中で生野地区をフィールドとされている呉 光現(オ・グァンヒョン、イエス団理事)さん、と生野地区在住で在日一世の任 孝烈(イム・ヒョヨル)さんとの対談には多くの参加者が衝撃を受けたことでしょう。単身で日本に渡ってきたイムさん、戦前、戦中、戦後の混乱の中、結婚・出産・子育て、日本人から耐えられないような差別を受けるなど想像を絶する半生を語られました。そんな中でも夜間中学、夜間学級での学びの中で“文字が読める”ようになり、“新聞が読める”ようになって世界が変わったそうです。在日外国人にとって、教育を受ける権利を

保障される「夜間学級」は勉学の学びだけではなく、世界観の変化をもたらすような創造的な場所であったそうです。



任 孝烈さんと呉 光現さんとの対談

また、呉 光現さんが用意されたヘイトスピーチの映像には、人種や民族などのマイノリティに対する「攻撃」が露骨にみられ、容赦ない罵声は「被害者」の精神をズタズタに切り刻み、精神を失陥させることは容易に想像できます。ヘイトスピーチがあるところに必ず「被害者」があり、その方々の尊厳を破壊していることを、そして私たちが生きている日本で起きていることを覚えなければならぬでしょう。

「フィールドで学ぶ」のセッションでは、愛信保育園、大阪聖和保育園、大池橋サンボラム、ディサービスさらんぱん、生野協働の家こさき作業所の5つのグループに分かれて現場を体験しました。

愛信保育園では「多様性を尊重し生きる力を育む」を保育理念に置き、キリストの愛を基盤にしながら、共に生きる心と力を育てる保育を展開されています。施設自体の環境に工夫が多々あり、コーナー遊びの充実、自然に触れるために毎日の散歩を欠かさない、育児担当制によるきめ細かな保育体制など、子どもたち一人ひとりとゆったりと関わっておられる姿が見られ、子どもたち一人ひとりが大切にされ愛されて育っていることを理解することが出来ました。



フィールドワーク：愛信保育園

各施設の方々にも見学だけでなく体験する学びがあり、参加者の“気づき”に深さを与えてくださいました。あらためて感謝申し上げます。

最終日、様々なセッションを終えて「ミッションステートメント2009」の実現のためのアクションプランを作成しました。参加者は各自の施設にある地域ニーズに目を向けていることでしょう。

今回、生野の地域で参加者が知ったこと、感じたこと、気づいたことは一人ひとりの感性によって違いはあります。しかし、私たちイエス団職員として“どの立場に立ってモノを見つめ”“誰に寄り添い”“誰と共に生きるのか”を熟考しなければなりません。イエスに倣って生きることの本質を見つめながら問い続けていきたいものです。

報告：企画委員会 研修担当チーム

ぶどうの木保育園 園長 木村 耕

施設長研修会

企画委員会からの提案で施設長・管理職に対する研修を法人でつくっていくことが、理事会で決議され、研修体系検討委員会が設置されました。研修内容について委員会で協議され、2012年10月には「イエス団施設長に期待される能力や働き」を答申。そして、その内容に沿って、研修体系検討委員会作業チームで1年間話し合い、具体的な研修として計画し、2015年度「施設長研修」として開催する運びとなりました。

この研修は「イエス団の施設長に期待される能力や働き」から、特に①問題解決能力を高める ②運動推進と理念の発信を考える ③社会や他者との関わり方についての視点を育てる、というねらいをもって行われました。



事前研修での一場面

事前研修を5月28日に行い、8月27、28、29日には京都東九条でのフィールドワークを中心にした研修、そして10月29日に事後研修を行い、イエス団の半数の施設長がこの研修を受講しました。



事前研修での一場面

東九条研修では、社会の課題が重なっている地域に向き合い、地域に根差した事業展開を行う施設を訪問し、その働きを通して社会への働きかけや他者との関わり方についての視点を育てることができました。



ミッションステートメント2009を具現化していくために、制度を越え、「小さくされたもの」に仕えるために私たちは何をなすべきなのかを自らに問い直し、その気づきを得るための本当に意味のある研修が行えたと思っています。

日常の業務に埋没し、制度の中で、その業務に追われ、制度の枠外の人たちが見えなくなっている現実を見直し、もう一度自分自身の感性を奮い立たせ、気づき、考えることができた研修になったのではないのでしょうか。

各施設長のみなさんにとっては、日常業務で忙しい中での参加であり、スケジュールとしてきつかったと思います。また、このような形での研修は、法人としても初めての試みであり、今後のためにも皆さんからさまざまな評価を頂きながら、より良い研修としていければ、と考えています。



フィールドワーク



フィールドワーク

指導していただいた長尾先生、川中先生、東九条で多くの学びを与えてくださった地域福祉センター希望の家・希望の家児童館、希望の家カトリック保育園、京都コリアン生活センターエルファ、東九条まちづくりサポートセンター（まめもやし）のみなさんには本当に感謝です。

研修委員、スタッフの皆さんもありがとうございました。そして参加いただいた施設長のみなさん、お疲れ様でした。

報告：研修委員会 委員長

賀川記念館 館長 友愛幼児園 園長 馬場 一郎

施設紹介

天使ベビーセンター

データ

〒554-0022 大阪市此花区春日出 1-15-13

TEL : 06-6461-3713 FAX : 06-6462-1072

<http://www.ans.co.jp/n/tenshi/>



天使ベビーセンターは大阪の西の端、此花区にあります。今ではユニバーサルスタジオジャパンの近くと伝えた方が分かりやすいと思います。

1925年賀川豊彦先生が四貫島セツルメントを設立してから天使グループは今年90周年を迎えました。10月1日の創立記念日には、今までの職員や地域に仕えてきた仲間が同窓会で集い、賀川先生や小川秀一先生・小川居先生の思い出を語り合いました。90年の歴史を受け継いでいく私たちは時代と共に変化するものと変化をさせないものを見極め、その志を無くさぬようにと思っています。そして地域に根差した施設として、100年に向け歩み出しました。

乳児は担当制を取り入れながら一人ひとりの思いをしっかり受け止め安心できるように、また「一緒にしたら楽しいね」と関わる事の大切さもその中で知らせていっています。



jbn18-7 ポン！ポン！ これいい音するね～



サツマイモの収穫

環境や保育内容など、まだまだ保育士の葛藤する姿はありますが、天使に合った形を皆で一緒に創り上げていっている毎日です。

また、地域的に自然の少ないところですが、一步園に入ればシンボルのイチヨウの木・ビワの木・田んぼ・畑・しいたけハウス・池・盛山と四季折々の自然が感じられるようになっています。



秋のみのりを見つけたよ



どろんこあそび



園庭のイチヨウの葉であそぶ



園庭の田んぼにて

部屋の中にも生き物がいっぱいいます。天使は自然とのつながりを大切にしています。自然から得るものが沢山あるからです。決して広い園庭とはいえないのですが、その中で体感・体験を通して命の大切さや不思議さ・神秘の中で神様を感じることが一杯あるからです。自然はいろいろな事を教えてくれます。神様の中で「生かされている」という事を思い、心が育つ保育をこれからもしていければと思っています。

愛之園保育園

データ

〒645-0004 和歌山県日高郡みなべ町埴田 1695

TEL : 0739-72-2371 FAX : 0739-72-5153

E-mail : ainosono@jesusband.jp



愛之園保育園創立70周年の記念誌に今井鎮雄先生より巻頭言を頂きました。その中に「社会福祉事業は決して施設ではない。そこには愛による地域の人々との暖かい交流と支え合いがなければならないし、その意味でそれを開拓し発展させた創設者一人一人の苦労と信仰と地域への思いを全うさせねばならない。」とあります。

あれから17年、私たちはこの地域に密着し、乳幼児に神様の御用を展開してきましたが、今や園児のみならず胎児からお年寄りまで発展しています。

まず、子育て支援では、「集い」という事で、朝起きて昼まで過ごす生活リズム作りの為に親子が集まって遊んだり、赤ちゃんとうまく過ごせないママの息抜きや離乳食の試食・相談・アドバイスに保健師や助産師、管理栄養士が居てくれます。又気軽に身長、体重、頭囲の計測もできるよう準備します。お家にもりがちな親子にはお外遊びをするための公園や広場を紹介し、外気や太陽にあたり日中思いきり活動する事でメリハリのある健康的な生活を勧めています。

又、手作りの小物やおもちゃ作りの支援もしています。

「学び」では、育児講座として親子でのわらべうたを通して心と言葉を育てたり、食育で離乳食から幼児食についての栄養や工夫の仕方を学びます。これらには園長経験者の方や食生活改善推進協議会の方が教えてくださいます。又、消防署のご協力で事故予防学習会を開き、誤飲等の対処法や災害時に必要な乳幼児向けの物の展示等も行います。



事故予防学習会



災害時に必要な乳幼児向けの物品展示

「相談」は随時受け付けており他機関との連携を取って健やかな成長の為に共通理解をしています。日ごろ接しているスタッフとの会話の中から気づき、相談に繋げ見守る事もあります。出産前から利用してもらおうと、母子手帳を受け取りに来る妊婦さんに呼びかけて来ましたが、最近では、もっと早期から赤ちゃんについての理解の必要性を感じており、中学生の思春期体験で赤ちゃんを抱っこする時にお話する機会が持てたら良いと考えています。



つどいのひろば「はいはい」の活動の様子

保育園では、「eco孫爺」と称して祖父母の方々に園に来ていただき一緒に浜辺清掃をしたり、わらべうたや正月遊びを楽しみます。得意のコマ回しを披露してくださったり、あやとりと一緒にしてくださり、子ども達はおじいちゃんおばあちゃんの周りから離れたいようでした。

eco孫爺での祖父母との交わりの様子



わらべうたあそび



浜辺の清掃



園の畑で苗植え



祖父母とのお餅つき大会



収穫感謝の芋煮会

又お餅つきや芋煮会等の食事会も行っています。餅つきでは祖父母が主役となってかまどの火起こしから石臼と杵で餅をつき、丸め方を教えてもらい、芋煮会では焼き秋刀魚をほぐしてもらったりと、どの子も孫のように接して下さいます。畑作りでは、土作りをして下さり、苗植えを教えてもらいます。若い父母では味わえない温かいひとときを過ごせる機会となっています。

毎年恒例の保育園まつりでは、卒園児を始め地域の方々が多数来園し、懐かしい交流の場となっています。

地域交流としては、花の日や感謝祭にお世話になっている病院や警察、消防、図書館、役場、そして老人施設にお花や手作りのプレゼントを届けに行ったり、敬老の日には一人暮らしのお宅訪問をします。デイサービスセンターには運動会やクリスマスでのダンスや歌、ミュージックベルを披露し、ふれあいの時を持ちます。帰る頃には皆さんが笑顔になり握手で別れを惜しんでくださいます。



花の日訪問



七夕訪問

保幼小連携のために、ソーシャルワーカーや教育主事、臨床心理士、保健師、民生員、児童相談所、各園・校長が集まり、地域の子どもの成長を見守ろうとしています。

今後、合併や高台移転と大きな課題が控えていますが、今まで培ってきた愛による地域の人々との暖かい交流と支え合いを大切にしながら、全うさせて行きたいと思えます。

イエス団の輪っ

「イエス団の輪っ」と題してリレー形式での投稿です。理事・評議員から一人、一般職員は、各ブロックより一人ずつ寄稿していただきます。

6回目は、理事の祐村明さんから理事の宇野豊さん、四国ブロック：家入理さん（豊島神愛館）から竹垣美紀さん（かがわ子ども・子育て支援センター育愛館）、大阪ブロック：古川良一さん（聖浄保育園）から松居太開さん（ガーデン ロイ）、兵庫ブロック：安芸淳子さん（一麦保育園）から杉本知佐さん（幼保連携型認定子ども園のぞみ保育園）、京都ブロック：山崎希充子さん（ぶどうの木保育園）から松村香葉子さん（くずは光の子保育園）です。

社会福祉法人イエス団理事 桃陵乳児保育園 園長 宇野 豊 「イエス団との関わり」

イエス団との関わりは、2005年に桃陵乳児保育園の事務職員になった時点で、ということになりますが、「法人」の一員として自覚しはじめたのは、2007年に桃陵保育園の施設長に就任してからでしょうか。それまでは「イエス団」や「賀川豊彦」の名前は知ってはいたものの、どちらかといえばあまりすっきりしないイメージをもっていましたので、若干の躊躇ととまどいを抱えながらのスタートでした。このあたりの含みは、前職との関連もありますので、自己紹介かたがた、これまでの歩みを記したいと思います。

前職（「職」といえるかどうかは別にして…）は、京都駅南部の東九条にあるプロテスタント諸教派、聖公会、カトリックで運営される「東九条キリスト者地域活動協議会」の活動専従で、そこで20年ほど働いていました。

この地域は、ルーツを朝鮮半島に持つ住民、被差別部落から移り住んだ住民、低額所得で生活を余儀なくされる住民が多く居住し、住環境や教育の問題など、様々な課題が重なり合っている地域で、「こわい」「きたない」などと、いまでも差別的に捉えられている地域でもあります。そこでの活動とは、住民の生活と人権を守るために必要な取り組みを、住民と対話しながら発見し、住民とともに推し進め、場合によっては必要な政策をとらせるために、京都市など関係各機関に対して強力に要求するというものです。

この手法は、当時「地域の組織化」としてアジア各国のスラムで先進的に展開されていたこともあって、この活動に入ってからすぐ後の1986年の半年間、CCA-URM（アジアキリスト教協議会—都市農村宣教委員会）のアレンジで香港、フィリピン、韓国の現場で研修を受けました。内容は、規模や状況など日本とは比べものにならないほど劣悪な都市部の貧困地域をいくつか訪ね、そこの活動家（オーガナイザー）としばらく寝食、行動を共にするという、シンプルで過酷なプログラムでした。

この研修を経て、東九条でも地域活動を本格化させ、カトリックの隣保施設、保育園などと連携を取りながら、地域の住民団体に参加して生活相談を受けたりと、日々地域を歩き回っていました。そこでは「地域にとってお前はなにものか」という厳しい問いや視線を受けつつ、地域住民の厳しさ、やさしさに触れ、ともに生き痛みを共有しようとする、そして絶えず自分自身を問うということを深く学んだような気がします。



また、「キリスト者」の看板を掲げて地域にかかわることの意味、「イエスに倣う」とは一体どういうことなのか、そんな問題意識も頭の中でグルグル回っていました。

2009年は「賀川豊彦献身100年」ということで、様々なイベントやプログラムが計画され、私がイエス団に関わりはじめた2008年はまさに、その準備が始まった年でもありました。正直にいうと、生誕何年とか献身何年という言い方にあまりなじみませんでしたが、ひとつのきっかけとして、様々な課題を考え直す機会となればという思いで、「理念委員会」に参加、ミッションステートメントの作成に携わりました。この時に出会ったイエス団の仲間たち、特に賀川督明さんとの出会いは、賀川豊彦や法人への問題意識を共有することができた、とても大きな出来事で、そのことで両者への「あまりすっきりしないイメージ」を、逆に前向きにとらえ、担うべき課題、「イエスに倣う」ことの意味を、「この場」で深く掘り下げようと思わせてくれました。

課題を背負いながらの歩みは少し重たく感じますが、日々子どもたちのかかわりを糧としつつ、仲間たちとともに進んでいけたらと思います。

次号は生野の呉光現さん、よろしく！





四国ブロック

かがわ子ども・子育て支援センター育愛館 竹垣 美紀

「感謝の祈りと愛する心」

このたび、神愛館から「イエス団の輪」のバトンを受け取りました、育愛館の竹垣美紀です。今年で3年目、2歳児を担当しています。1・2年目の0歳児から2歳児へ、担当が変わった当初は子どもたちの姿の違いに驚きや戸惑いもありましたが、友だちとかかわって遊んでいる姿、ことばでたくさんのかたのことを伝えようと一生懸命な姿、生活習慣が身につく自信をもちながら生活している姿に成長を感じながら、私も子どもたちに精一杯応えていこうと努めています。

今回バトンを受け取り、～イエス団に連なる一人としての思い～とは…自分を振り返りながら考えることのできる機会となりました。私とキリスト教の出会いには育愛館に就職してからです。キリスト教保育に携わるなかで、私自身も子どもたちと一緒に祈り感謝することの大切さを感じています。感謝や思いを祈りとともにことばにすることは、自分自身の気持ちの整理にもなり、自分への問いかけや解決するための考えるきっかけでもあり、周りの人のことも考えられるゆとりの時間や力にもつながっていくと思います。そして、目を閉じ心静かに穏やかにして祈ることで、子どもとともに心の安定と安心できるひと時となっています。

また、「私があなたがたを愛したように あなたがたも互いに愛しあいなさい」(ヨハネによる福音書 13章 34節)の聖句を育愛館の指標としています。子どもも保育者も、神様によって命を与えられ神様の愛によって生かされています。まずは、私自身がしっかり理解し、人を受け入れ思いを寄せることや許せる寛大さを意識していかなければと感じています。そして、子どもたちに「神様に愛されている子ども」として、どんな自分であっても愛してくれる存在がいることを伝え、自分のことを愛し、周りの人も愛す「互いに愛しあえる」環境や関係づくりを大切に日々の保育に取り組んでいます。

子どもたちの毎日が、友だちや周囲の見守る大人たちとともに、思いっきり遊んだりいろいろな体験や活動したりするなかで、喜びや楽しさ、ときには怒りや悲しみも経験しながら心豊かに育ってほしいと願っています。保育者として、個々の発達に応じた援助や一人ひとりの思いや欲求を受けとめながら信頼関係を築き大切にしながら、愛する心・感謝する心・思いやりの心を伝え育んでいきたいと思っています。

本年度から、かがわ子ども・子育て支援センター 育愛館として、神愛館とともに新たにスタートしました。園内のことだけでなく、地域との連携や子育て支援の拠点として発信していくようになります。これからも、出会いやつながりを大切にし、私自身もたくさんのかたのことを学びながら保育士として成長していきたいと思っています。

次回の「イエス団の輪」は、瞳保育所をお願いしたいと思っています。



大阪ブロック

児童養護施設ガーデン ロイ 松居 太開

「ミッション：生命輝け！」

聖浄保育園から、新設されるガーデン エルロイに異動して、早や6年目を迎えました。

保育所と生活施設の違いに戸惑いつつも、元々子どもが好きで保育士という職を選んだ私ですので、何とかここまで歩んで参りました。

保育所・幼稚園との違いを皆様に判っていただくために、馴染みの薄い、イエス団でもガーデン ロイが唯一の「児童養護施設」について最初に説明いたします。

児童養護施設とは、一言で云って、様々な理由で、家庭では暮らせない児童を受け入れ生活する場です。年齢は2歳から18歳まで。それ以下の乳幼児はガーデン エルのような乳児院となります。及び高校卒業等で18歳で縁が切れるのではなく、進学や就職後のアフターケアも大事な役割です。

2010年4月の開設時は、5歳を上限にしていました。ですから、今日までに家庭復帰や里親さんに恵まれなかった子どもたちは、一番上が小学校3年生となりました。幼稚園から小学3年生まで、30名定員いっぱいのガーデン ロイです。

赤毛のアン等でご存知でしょうが、児童養護施設は、かつては「孤児院」と呼ばれ、両親の無い子どもが入所していました。

ところが現在では逆なのです。

ガーデン エルもガーデン ロイにも、両親が無くて入っている子どもは皆無です。全員に両親が片親がいます。

その理由はお判りですね。殆どの子ども達が虐待から逃れるために入所して来るのです。毎年信じられないような増加を続ける児童虐待。その為に身も心も深く傷ついた子ども達。本稿では虐待の内容には触れませんが、耳を疑うような事例ばかりです。

生活を共にし、一緒に笑い、一緒に泣く中で、傷を癒し、全員が「生きているってイナ」「生まれてきて良かった」と思えるように、そして両親に「産んでくれて、ありがとう」と云えるように、一歩ずつ歩んでいくことが、児童養護施設の役割なのです。

一人ひとりの人生が光り輝くように、手助けが出来る、なんと素晴らしいミッションでしょう。

正直、辛い事やしんどい時もあります。そんな時は、逆に私が、子ども達の笑顔や成長ぶりに癒される事もしばしばです。

こんなミッションを与えて下さった主に感謝しつつ、今日も子ども達と共に、歩んで行きます。

さて、次号の「イエス団の輪」は、馬見労務保育園にお願いしたいと思っています。



兵庫ブロック

幼保連携型認定こども園 のぞみ保育園 杉本 知佐

「祈るということ」

兵庫ブロック「一麦保育園」の安芸先生よりご指名をいただきました、「幼保連携型認定こども園 のぞみ保育園」の杉本知佐です。

私とイエス団との出会い。それは短大が姫路方面だったのですが、卒業してから地元の神戸でアルバイトをしながら就職先を探しているときに短大から連絡があり（しかも2月頃）急遽のぞみ保育園の面接が決まりました。今考えるとこの偶然のタイミングで私がイエス団と出会えたことは、神さまに導かれたと感じています。それからイエス団とのつながりの始まりです。短大時代にキリスト教保育を学び、就職してから祈るということに初めて触れました。

日々の保育では、食前の祈りや感謝の祈りを様々な場面でしています。子どもたちの中でも「かみさまにありがとうっていうねん」と祈るということを神さまと話すというように感じていたり、0歳児の子どもたちも保育者が祈る姿を見せると同じように手を組んで頭を下げる仕草をしたり、普段の何気ない生活の一部として浸透しているようです。のぞみ保育園でのキリスト教保育との出会いにより、私は今までよりもっと身近にある様々なことに感謝の気持ちを言葉にしたり、心にとめたりするようになりました。また、職員間では行事前や会議などの始まりに祈っていますが、手を組み、目を閉じると自然と心静かになる…という何ともいえない思いを感じることができました。難しい言葉だけではなく、「無事に終わりますように」「子どもたちが楽しめように」と心を込めて祈ることで、守られているような、包まれているような安心を感じました。

祈るということは、隣人を思いやる気持ちがもてます。目の前にいる子どもたちはもちろん、一緒に働いている職員、同じイエス団の職員、またその職員がつながっているたくさんの人たち。目には見えないつながりも大切にしたい。また他の施設との交流をもち、隣人として今私がやるべき事はなにか、何ができるかと問い続け、祈りから隣人を思いやり、愛せる気持ちをもっていきたいです。そして、のぞみ保育園にとどまらず、JBや兵庫ブロック以外の施設での出会いの中で、人とのつながりや絆というのが私に自信を与えてくれ、時には共に悩み、共に考え、支え合えるつながりをもてることができました。

周りの仲間たちから与えられたものを私が隣人に返していけるように、イエス団との出会いで初めて触れるもの、感じることを一つひとつ大切に、これからも目に見えないつながりを信じて勤めたいと思います。

次は、みどり野保育園の方にリレーをバトンタッチしたいと思います。よろしくお願いします！！



京都ブロック

くずは光の子保育園 松村 香葉子

「私の伝えていきたい思い」

初めまして、大阪府枚方市にあるくずは光の子保育園の看護師として勤務しております松村香葉子です。ぶどうの木保育園からバトンを受け、《イエス団に連なる一人としての思い》として、私の感じるままに思いを少し書かせて頂こうと思います。

保育園の看護師としての役割は多々ありますが、その中の一つ、怪我対応でのエピソードです。私は日頃から子どもが怪我をしてしまったときに、乳児クラスであっても幼児クラスであっても、子ども自身から怪我の理由や症状を聴くことを大切にしています。（もちろん保育士からも詳細報告は受けます）

例えば、「どうしたの？」と聞くと、「お外でな、〇〇ちゃんとぶつかって、おでこが痛いねん」、乳児クラスの小さな子どもでも、（指をさし）「あっち、いたいいたいねん」と一生懸命教えてくれます。またお話が出来ない子どもでも、痛かった部位に手を置き、「ここ！ここ！」と教えてくれます。上手にお話が出来なかったとしても子どものお話を聴くようにし、「そうかあ、痛かったね」と受け止め、処置しています。そのようなやりとりを積み重ねていく中で、朝おはようのご挨拶をすると、真っ先に「ここ治ったで〜」や「ここ見て〜、おうちで転んでん」と保護者の方より先に教えてくれるようになってきました。

また、処置をしていると、「〇〇ちゃんどうしたの？大丈夫？」とお友だちの心配をしてくれたり、「まつむらせんせ〜い、〇〇ちゃんが怪我してる〜」と怪我に気付き、報告してくれる子もいます。そのやりとりにより、とても嬉しい気持ちになります。

私は、子どもが少しずつでも自分の身体の症状を自分で言えるようになってほしいなあと考えています。痛みを知ること、自分の身体を知ること、自分のくいのちを大切に、また、お友だちの痛みを分かち合い、労わる気持ち、思いやりの気持ちが芽生えてくるのではないかと考えています。

くいのちの大切さを伝えること、難しいことではありますが、私は小さなやりとりを大切に、少しずつ伝えていきたいと思っています。元気に過ごすことが出来る毎日に感謝して…。

寒い日々が続いておりますが、皆様お身体に気を付けて、元気でお過ごし下さいね。

さて、今回の「イエス団の輪」は、宇山光の子保育園の方にバトンを渡したいと思います。宜しくお願い致します。

『イエス団の輪っ』についてお知らせとお願い

- 今回のご寄稿ありがとうございました。

次号は、理事の呉光現さん、四国ブロックは瞳保育所 大阪ブロックは馬見労務保育園 兵庫ブロックはみどり野保育園 京都ブロックは宇山光の子保育園のご指名です。改めてご寄稿をお願いいたしますが、その節はどうぞよろしくお願いします。

（イエス団報編集委員会）

トピックス

ファミリーホームハンナ

今年度の4月から、ファミリーホーム「ハンナ」がスタートしました。ガーデンエルロイから徒歩5分の100坪の地に、8LDKの家を建てました。ファミリーホームとはグループホームのような施設ではありません。定員が6名の、里親家庭です。ガーデンエルロイ職員の私が、里親資格をとって、新築の家に住み込み、養育にあたっています。



半年経った現在は、2歳と3歳の兄弟と、小学1年生の3人の子どもが入居しています。住み込みで働く私は一人暮らしもしたことがなく、始めは戸惑うばかりでした。

4月のスタート時は2歳と3歳の兄弟が入居しました。兄の方は乳児院で私が生後3か月の時から担当をしていた子どもです。場所見知りや人見知りもあり、幼稚園は2ヶ月ほど毎日泣いて嫌がりました。しかし、毎日の幼稚園生活の中で担任の先生との信頼関係が深まり、笑顔で登園できるようになりました。落ち着いて来て、安心していたある日、幼稚園で本児が荒れていたと、担任の先生から報告を受けました。次の日、本児と2人で話をしました。何か嫌なことがあったのかと問うと、私に「ななちゃん(主養育者)は〇〇(その子ども)くんの」と言われました。その時私は、ハッと気が付きました。私は4月からの生活で、兄弟2人と過ごす時間は十分特別な時間だと思っていたからです。本児にとっては足りていなかったということに気づき、衝撃を受けました。それからというもの、兄弟一人ずつとゆっくり過ごす時間を作ることで、兄弟ともに、養育者である私だけでなく、補助員の職員とも信頼関係を深めていくことができました。8月にはホームで1泊2日の三重旅行にも出かけ、少しずつ私たちらしい「ハンナ」を作っていました。

8月17日、遂に三人目である小学1年生が入居しました。この子はガーデンロイに入所しており、ロイからは、「自分の意見を言うことが苦手で、好き嫌いもなく、優等生です。」と引き継ぎを受けていました。ハンナに入居してからの印象は、『聞いていた話と違う。』その一言でした。抱っこやおんぶを求めて甘え、好き嫌いもたくさんあり、見たいテレビや、したいこと、何でも言ってくれたのです。ハンナに馴染めるかの心配は杞憂に終わりました。入居してすぐはロイのお友達と遊ぶことも少なく、心配する日々でした。夏の終わりにロイの友だちを呼んでバーベキューをしました。それからは毎日のようにロイのお友達と遊ぶようになりました。学校が始まってからもロイのお友達と遊ぶ毎日でしたが、最近ではロイ以外のお友達とも遊ぶ約束ができるようになり、今ではお友達と近くの公園や、駄菓子屋にいけるようになりました。兄弟との関係も良く、兄弟も「お兄ちゃんが出来た」と、とても喜んで毎日後を追いかけて遊んでいます。もちろん喧嘩もします。喧嘩をしてもすぐに仲

直りをして、仲良く過ごしています。

それぞれと二人きりで過ごす時間を養育者の私だけでなく、補助員の職員とも作るようにし、それぞれが特別な時間を過ごせるようにしています。

幼稚園のことや小学校のこと、家事も全て手さぐりで、分からないことだらけの毎日ですが、ガーデン エル・ロイの協力や支えがあるので、安心して自分たちらしいファミリーホームハンナを作ることができています。これからたくさんの問題に直面すると思いますが、一つずつみんなで話し合いながら、月並みではありますが、本当に明るく、楽しい笑顔が絶えない家庭にしていきたいと思っています

ガーデン エル・ロイが全面支援をして、この新しい試みを成功させようと、只今奮闘中です。皆様のご支援をお願い申し上げます。

ファミリーホームハンナ 竹内七海

東兵庫ブロック元年

～パイロット的な役割を担う～

今年の4月、イエス団に東兵庫ブロック施設長会が新たに発足した。兵庫ブロック施設長会から西宮市と尼崎市にある三つの近隣園（保育所2園、幼稚園1園）が独立したのである。三施設の園長は近隣園という地の利を活かしたフットワークの軽い機能的なトライアングル・ブロックだと自負している。

東兵庫ブロックの施設長会は毎月1回開いている。ブロック長の田村三佳子園長（甲子園二葉幼稚園）はイエス団の施設長会の中でも東兵庫ブロックの施設長会が一番充実していると事あるたびに口にします。確かに毎回予定しているアジェンダ（議事日程）の通りに会を終えたことがない。一つひとつの議題に熱が入り会議の時間を超過するのが常なのだ。そのような三園の施設長の横顔を手短かに紹介したい。

まずは、ブロック長の田村三佳子園長（甲子園二葉幼稚園）だ。保育園・幼稚園の現場を熟知している。常に地域の保育・教育をどう支援し有効な事業をどう展開すればよいのか模索している。強みは自らの仕事に対するビジョンをもっていることだ。今、新たな事業として「子育てひろば」をスタートさせながら園舎増築の取り組みについて熱っぽく語るその表情は青年のような初々しさを感じる。

二人目の中田一夫園長（みどり野保育園）は、39の施設を有するイエス団本部の事務局長としての10年のキャリアとスマートな頭脳で説得力のある論を説く。「人の情緒」という言葉を良く発する情に厚い人間だ。今年保育所の園長として就任一年目だが、その企画力、マネジメント能力を遺憾なく発揮しながらオンリーワンの保育園を目指すという意気込みだ。

最後は筆者である。一麦保育園という伝統ある園に赴任して二年目。学校教育の世界から社会福祉の世界に飛び込んだが、「保育所は教育の根っこであり学校教育に福祉のエキスをブレンドすると学校教育に新たな息吹が起ること間違いない」と言うことが口癖となっている。イエス団で出会った方々の持つ熱い福祉精神に感化されてしまったのだ。

このような三園長、6月には相互の職員間のコミュニケーションの場となる東兵庫ブロックJBFを組織した。愛称はJBM I K（ジェイビミク）と呼ぶ。M I Kの意味は、みどり野保育園のM、一麦保育園のI、甲子園二葉幼稚園のKでそれぞれの頭文字を合わせて語呂の良い呼び名とした。そして、去る10月23日（金）にはJBM I Kの職員の初顔合わせを兼ねた合同研修会を開催した。三園の主任が中心となり企画運営を行ったが会場となった甲子園二葉幼稚園には三園から37名の職員が参加した。

講師は立花育児カウンセリングセンターの宇田倫子氏を招聘して講演をしていただいた。保育士としての役割や保護者との信頼関係を築くコミュニケーションづくり、さらには子ども達や保護者への言葉掛け等、具体的かつ示唆に富んだ内容で有意義な学びの時を持った。



★第1回JBMK研修会★

その他、ユニークな取り組みとして、三園と関わりのある教会牧師と「園長と牧師の会」を持っている。事の始まりは、甲子園二葉教会の元正章牧師がみどり野保育園に赴任した中田園長の歓迎会を関係牧師を交えて持ちたいというリクエストから始まった。これまで3回を数える。各自が持ち寄った美味しいものを食しながら自由に語り合い親睦を深めている。

2015年度は東兵庫ブロック元年だ。イエス団の保育・教育施設が抱えている今日的な課題解決に向けてパイロット的（水先案内人）な役割を担っていききたい。そのような気概を抱いてスタートした東兵庫ブロック施設長会である。

一麦保育園 園長 平良嘉男

イエス団全体主任会が行なわれました

MS2009の実現のために、わたしたちは何を大切に、どこに向かうのか、そしてどのような社会をつくりだすのか、その鍵を握るのは、施設長を補佐し、職員をリードする立場にある方々であろうと思います。日頃現場を預かり、なかなか外に出る機会の少ない主任やその任に準ずる方々が一堂に会し、顔の見える関係作りができればという願いから、企画委員会研修チームの発案により、兵庫ブロック主任会の協力を得て、イエス団全体の主任会が実現しました。

そして、記念すべき第1回目は、リラ・プレカリア（祈りのたて琴）に取り組まれているキャロル・サックさんをお迎えし、賀川記念館で行なわれました。

25名の参加があり、皆で同じ時を共有し、「よりそう」ことについて考え、また自身も癒しのひと時となりました。

甲子園二葉幼稚園 園長 田村三佳子

第1部「リラ・プレカリア（祈りのたて琴）～祈り、よりそうこと～

キャロル・サックさんによる歌とハーブの演奏でした。「患者さんの呼吸のペースに合った曲を選び、ハーブを奏でる。つまり、患者さんが指揮者である。そして、楽譜を見ることなく演奏する。」と聞き、驚きや感心の気持ち、そして、目の前にいる相手のことを常に想いながら演奏していることが伝わり、とても感動しました。それはまさにテーマの通り、「寄り添うこと」だと感じました。

実際に生演奏を聴き、想像以上に深みのある音を奏でるハーブとキャロルさんの美しい歌声がとにかく心地よく、心身ともにリラックスさせて頂き、短い時間ではありましたが、貴重な癒しの時となりました。



第2部「イエス団の仲間とともに」～語り合しましょう～

第2部は今回の全体主任会の主たる目的通り、「顔の見える関係づくり」、「イエス団の仲間」、「明日への活力に！」というところがしっかりと押さえられた会になりました。

5グループに分かれ、それぞれのグループで選んだ様々なテーマにそって、一人一人の思いを分かち合いました。どのグループでも“主任として今、悩んでいること”や“主任の役割・大切にしている想い”というテーマが出ましたが、根底に「イエス団の仲間（＝心強い味方）」というところがありましたので、心をオープンにし、思いのたけを発言できました。特に、参加者の3分の1は新米主任でしたので、日々の仕事に翻弄される中での話を先輩方に受けとめて頂き、アドバイスや激励の言葉を頂き、本当に心強い力を得た思いで、次の日からまた新たな気持ちで進むためのパワーとなりました。

天国屋カフェのデザートバイキング

天国屋カフェで、これまで何度も食事をいただき、“おいしさは私の胃袋が保証済み！！”と思っていましたが、今回のデザートバイキングは、また想像を上回るおいしさでびっくり！国内で洋菓子の地と言えば神戸が必ずあげられると思いますが、我が天国屋カフェ、錚々たる有名洋菓子店にも決して引けを取りません！

意外にもデザートバイキングは初の試みだったそうで、さらにびっくりしたのですが、これはまた是非体験したい！と心底願っています（私の胃袋もお願いしています）。

一麦保育園 主任 小関里美

豊島神愛館感謝会

豊島神愛館は、吉村静枝が8名の遺棄児を連れて坂出から豊島に移住したことから始まります。1947年8月21日のことです。

豊島には賀川豊彦が建てた結核病棟「神愛保養農園」跡があり、農園がありました。住居とミルクがあったのです。その後68年間、豊島神愛館は香川県唯一の乳児院として社会的養護の働きを担ってきました。

その背後に、島民の方々の暖かい眼差しと様々な形での支えがありました。しかし、建物の老朽化、耐震の問題の他に、医療、職員確保の問題など、島にあるがゆえの課題と困難があり、「豊島神愛館事業検討委員会」は、1999年に香川県本土移転を提言しました。

その後法人では、「豊島神愛館移転事業検討委員会」、「豊島神愛館将来構想検討委員会」、「かがわ子ども・子育て支援センター事業推進委員会」において議論を積み重ねると共に、「豊島の福祉を考える協議会」におい

ても、跡地利用も含め島民の方々と話し合ってきました。

そしてこの春、坂出育愛館と共に坂出市中央町に移り「かがわ子ども・子育て支援センター 神愛館」として新しく歩み出したのです。

移転に当たり、島民の方々に感謝の思いを表すべく、5月10日(日)12時～14時、アモーレ テシマリゾートにおいて「豊島神愛館感謝会」がもたれました。イエス関係者も含め、50名の方が参加してくださいました。



感謝会は、豊島教会 田中暉彦牧師 司式、奨励による礼拝をもって始まりました。礼拝の後、平田 義常務理事がこれまでの多くの支えに対して、法人を代表して心からの謝辞と共に、豊島神愛館跡地利用についても「豊島の福祉を考える会」での議論を報告されました。

島民の代表として、前土庄町議会議の山本彰治さんと、土庄町会議員の浜中幸三さんからお話をうかがいました。共に幼い時から「そば」にあった豊島神愛館がなくなることは、寂しく残念なことではあるけれども、子どもたちのことを考えると、それもいたしかたないと心のうちを語られたのが印象的でした。豊島神愛館が、島民の方々にとってどのような存在であったのか、その一端を知らされる思いがしました。

ある人が、夜に豊島神愛館の前を通ると「真っ暗」なのが「とても寂しい」と語られたことを思い起こします。

豊島神愛館は、68年間という歩みの中で、いつしか島民の方々にとっては「あたり前にそこにあり」、それゆえに「なくてはならぬ」ものとなっていたのだと思います。幸いなことです。



その他ナオミ荘、瞳保育所、豊島神愛館の紹介映像も披露され、食事をいただきながら、和やかなうちに会は終わりました。

今、神愛館は坂出で新しい歩みを始めています。島民の方々の思いと支えを忘れないように、精一杯前を向いた歩みをなしていきたいと思っています。

かがわ子ども・子育て支援センター 神愛館 山下茂雄

此花区子ども・子育てプラザ

大阪市が運営していた『此花区子ども・子育てプラザ』を2014年度から天使保育園が受託して運営しています。プラザは、此花区で31年前から勤労青少年ホーム、トモノス此花として地域の方々に親しまれてきた場所です。現在は、子育て中の親子を対象とした交流の場「つどいの広場」事業と子育て支援事業として講習会の実施、育児相談、地域の子育てサロン・サークルの支援、児童の健全育成事業、地域で子育てを支え合う事業としてファミリー・サポート・センター事業などを行っています。

また、貸室事業も行っており、地域の卓球クラブやフラダンス、空手や太鼓、絵手紙や料理サークル、子育てサークルが利用するなど子育て支援施設ですが、地域の子どもから大人まで様々な世代の方が訪れます。

「つどいの広場」は、広い運動室に乳幼児の親子が自由に遊べるスペースを用意しているのですが、受託した当初は、保育室とは違う広い空間で0歳～就学前の乳幼児の親子が楽しく安全に遊ぶためにはどのように環境を整えたらいいのかと、職員間で毎日話し合いをしていきました。試しては、別の配置にして…を繰り返し、0歳児がゆったり遊べるように、また、身体をたくさん動かして遊べるように、落ち着いて絵本を読むスペースやままごとなどコーナー的に区切って、どの年齢の子どもも楽しむことができるように工夫しました。

遊びの中で子どもも親も顔見知りになり、交流の場となっています。毎日来館する方や初めて足を運んで下さる方、外国の方の利用もあり、どの親子も安心して気持ち良く過ごせるようにしています。

玩具の取り合いも親子にとって、いい経験となっています。親はどうしたらいいのかわからず、子どもの気持ちに気づかずに怒ってしまいがちです。子どもや親が自分の気持ち、相手の気持ちに気づけるよう、間に入って対応しています。

在宅で子育てを行っている家庭の親子が、プラザで楽しく様々な経験ができるように、季節に合わせた製作や触れ合い遊び、夏祭りや運動会、クリスマス会などのイベントも行っています。また、保護者がリフレッシュできるようヨガ講座や一時保育有りの学習会、育児相談なども行い、家庭の子育て力を高められるよう事業を行っています。



子育てママのためのヨガ講座

また、地域の子育てボランティアの方が行っているサロン（子育て支援）に保育士が出向き支援しています。各地域の集会所で、子育て親子が遊べるスペースを用意して、育児相談や歌や絵本の読み聞かせをし、各サロンに合わせて遊びや製作の提案をしています。各サロンの思いも様々なので、その方々の思いを聞きながら、支援しています。回を重ねる内にボランティアの方が読み聞かせをして下さるようになったサロ

ンもあり、やって良かったとやりがいを感じてもらえつつあることに喜びを感じています。



四貫島友隣館子どもの家との交流(ドッチビー大会)

児童健全育成事業では、小学生～高校生まで集ってきています。中には、卒園児もあり、成長に驚き出会えたことに嬉しさを感じています。一方で思春期という多感な時期での関係づくりや対応に難しさも感じています。子どもたちはスポーツを楽しんだり、宿題や勉強に励んだり、工作や手芸に没頭したりとそれぞれの時間を楽しんでいます。子どもと同じ目線で遊び、乳幼児とは違う児童との関わり方に日々戸惑いながら、関わっていく中で距離を縮めてきました。その営みの中でつばやく子どもの思いを拾い、今、何を考え、悩んでいるのかを聞きながら、どの子どもも満足して過ごせるような空間作りを心がけています。

これから地域の方々の世代の方々とともに子育て中の親子に寄り添い、此花区の子育てを包括的に支えていくことができるよう支援していきたいと思っています。

此花区子ども・子育てプラザ マネージャー 濱田由香里

新園舎完成

ぶどうの木保育園

1975年に設立された旧園舎は、多くの卒園児やその保護者の方々、保育者に惜しまれながらその役割を終え、ようやく2015年3月、2代目の新園舎を建ち上げることが出来ました。新園舎建設にあたっては、近隣住民の方々に対する説明会など、幾度も重ねてお伝えしご理解いただいたこと、又旧園舎の解体時には強固なコンクリート破砕によって、騒音、地響きなど、改めて近隣住民の方々に繰り返しご迷惑をおかけしたことを思い出します。

園舎が建ち上がり、近隣の方々にご挨拶にお伺いした時には、「素敵な園舎が出来上がったね。おめでとう」とのお言葉に、ただただ感謝申し上げますばかりでした。

仮園舎での生活やその往復の引っ越しなど、様々な工夫や苦労はありましたが、現保護者やOBの方々、現・旧おやじの会などたくさんの方々の「ちから」によって乗り越えられました。

旧園舎と同じL型で2階建てとなった園舎は、子どもたちにとって違和感はなく、スムーズにそして静かに新しい園舎での生活が始まりました。



幾度となく続いた困難も、八幡市や京都府、イエス団本部、ヴォーリズ建築事務所、巖建設など多岐にわたるお支えによって、今現在のぶどうの木保育園があることを覚えて感謝申し上げます。

現在のホールには、旧ホールにあったステンドグラスの十字架と、天井から吊るされた荊の冠があります。このステンドグラスと荊冠が、平和な社会をつくりだす子どもたちの姿をこれからも見守り続けてくことでしょう。

ぶどうの木保育園 園長 木村耕



のぞみ保育園（幼保連携型認定こども園）

4月から幼保連携型認定こども園となりスタートした今年度。5月に園舎が完成し、引っ越し、その後、旧園舎の解体、園庭整備を7月に終え、完成いたしました。広い保育室で、園庭で、子どもたちは日々の活動をのびのびと楽しんでいます。

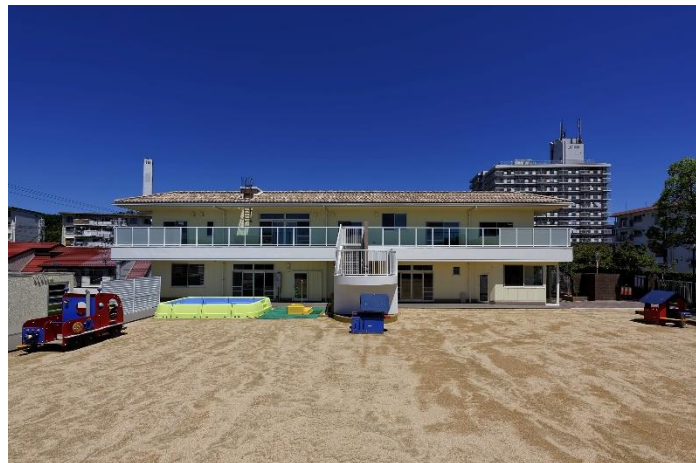


7月28日に園にて献館式を執り行いました。神戸市子ども家庭局、神戸市私立保育園連盟理事、地域関係の方等が出席してくださり礼拝をまもることができました。



近隣に大きなマンションが建ったことで、地域の子どもの増え、乳児の待機が増えているようです。また、隣接する公立幼稚園が2018年度で閉園するというので、地域の子育て世帯から1号認定こどもの受け入れをしてほしいと要望が多数ありました。また、以前からの地域で子育てに不安を感じている家庭の支援がしたい、援助が必要であるのに、受け入れの場がなかなか見つからない子どもがいると感じていたこともあり、2016年度より新たに1号認定こども15名を受け入れることとなりました。

地域に開かれた園として役割を果たしていきたいと思っています。



賀川記念館 総合研究所紀要「痛みのシェア～

賀川豊彦たちが遺したもの」のご紹介

「痛みのシェア～賀川豊彦たちが遺したもの」は賀川記念館の前館長で、昨年9月17日に召天された賀川督明さんの講演を冊子にしたものです。この講演は日本キリスト教社会事業同盟の第70回総会・研修会基調講演として2014年6月13日に開催されました。

前半ではイエス団の歴史や賀川豊彦たちが何を思い、その思いを実現していくために、どのような行動を起こしてきたのかが督明さんの視点、言葉で語られています。

また後半は表題にもある「痛みのシェア」に焦点が当てられます。私たちが見過ごしている「痛み」や「矛盾」について語られ、私たちのすぐそばに「痛み」を持っている人たちが沢山いることを、非常にわかりやすい言葉でお話されています。

これらの「痛み」や「矛盾」と向き合うことは本当に難しいことです。督明さんがこのことについて述べた言葉が非常に印象的でした。

以下引用して、ご紹介します。

「これは一人では絶対できないことなんです。だから私たちはスクラムを組んで共同でそれに立ち向かっていくのだと思います」

ミッションステートメント2009の実践を考える上で、ぜひ手に取っていただきたい一冊です。

ご希望の方は、賀川記念館にご連絡ください。一冊、200円（原価）（送料別途）です。

賀川記念館 総合研究所紀要

「痛みのシェア～賀川豊彦たちが遺したもの」

社会福祉法人イエス団
賀川記念館館長 賀川督明

2014年6月13日（金）

第70回日本キリスト教社会事業同盟

総会・研修会基調講演

J. B. フェローズ活動報告

兵庫ブロック

今年度は、これまでのつながりをさらに深めていくことを目標に活動しています。JB 担当もほとんどが新メンバーです。この出会いがまた、JB 兵庫の大きな力になるを感じているところです。

① 交流会の開催

毎年秋に行われている兵庫ブロック交流会も、今回で4回目。今年度は9月26日(土)、賀川記念館に107名のJB職員が集い行われました。

第一部は研修です。「昨年学んだハンセン病について、さらにもう一歩踏み込んだ話を聞いてみたい」という意見から、今年度は小林洋司氏(兵庫大学 短期大学部)をお招きし、「ハンセン病と賀川豊彦」という演題でお話をいただきました。



またその後、“お話を受けて自分の仕事や生き方でいかしていきたいこと”をテーマにグループディスカッションを行いました。差別と偏見に苦しみ、基本的人権が侵されてきたハンセン病と診断された人々の問題を、今日に生きる私たちの問題としてとらえる姿勢こそが大切なこと、そして、よりよい社会を作り上げていくために実践していくうえで「出会い、近づく、関わる、あきらめない」で行動していくことを学び合いました。



第二部は親睦会です。美味しいお弁当をいただき、どのグループも話はずんでいる雰囲気が感じられました。絵しりとりや、新聞ゲーム、じゃんけん大会などグループ対抗ゲームをして大いに盛り上がりました。今年のテーマ通り、「つながり」を感じることでできた会になりました。

② 施設訪問研修

今年は、10月2日(金)一麦保育園で行いました。また、育児担当制を取り入れた保育を見学しました。1月14日(木)には天隣乳児保育園でも予定しています。

③ 東日本大震災復興支援パーカー・Tシャツ

今年も各園にパーカー・Tシャツを販売しました。各園の協力もありうれしく思います。

④ 豊島夏祭り

8月22日(土)豊島夏祭りに参加しました。

たくさんの人と出会い楽しい時間を過ごすことができました。

報告：兵庫ブロックリーダー：杉の子保育園 鈴木明美

京都ブロック

2015年度のJBフェローズ京都ブロックの活動は、

- ① 「発達障がいに関する意見交換会」
 - ② 「給食に関する意見交換会」
 - ③ 「JB F 京都交流会 (JB F 京都大作戦 2015)」
 - ④ 「豊島研修」「長島愛生園研修」
- の4つの活動を主に行ってきました。

① 「発達障がいに関する意見交換会」

一昨年に高木恵子先生の講演会を行い、昨年は更に具体的に組みこんでいける様にと各施設の事例報告と、その事例報告に関して高木先生から具体的なアドバイスを頂く勉強会を行いました。

今年度は、その貴重なアドバイスをもとに、各施設から事例を持ち寄り意見交換を行い、情報を共有し、より良い関わりを考える場にしていくと考えています。



② 「給食に関する意見交換会」

年3回各施設の調理職員が集まり献立作り・レシピ・提供する器・食育の評価等の情報交換や意見交換の場として交流しています。

③ 「JB F 京都交流会 (JB F 京都大作戦 2015)」

今年も、1月に桃陵保育園ホールで行う予定です。毎年「交流」をテーマに行ってきました。普段交流の少ない他施設の職員と、より横の繋がりが持てる様に、2部制にしてはどうかと色々計画を考えています。

④ 「豊島研修」「長島愛生園研修」

神愛館移転に伴い、今年から2施設合同夏祭りとなりました。1施設減ったこともありJBフェローズとして何か出来る事はないかと考え、1ブース焼きそばを出店しました。豊島の方々、各ブロックの方々の御協力を頂き、お祭りを一緒に盛り上げるお手伝いが出来たのではないかと

と思います。

「長島愛生園研修」では、資料館の見学、当事者の方の体験談、当事者の方々と関わるの懇親会を通じてハンセン病問題が理解出来る貴重な機会となりました。翌日は、長島愛生園内の海岸の掃除を行いました。これからも継続して研修等を行って行きたいと考えています。

2015年度は、「豊島研修」「長島愛生園研修」等、全ブロックで参加してきた研修が年々参加者が増え、JB研修初めての方や、2度目、3度目の方の参加者との繋がりも輪も凄く大きくなり、ブロックの枠を越えて交流や助け合いが更に進んだ様に感じました。これらかもJBフェローズの活動はより柔軟に一人一人の大切な「声」に耳を傾け、もっと大きな繋がりも輪が出来る様に実践していきます。

報告：京都ブロックリーダー

宇山光の子保育園 荒木 健

四国ブロック

今年の四国のJBフェローズは、

- ①各園の子どもたちの作品の送り合い
- ②豊島の2施設合同夏祭り
- ③長島愛生園「ハンセン病」研修
- ④かがわ子ども・子育て支援センター神愛館・育愛館の施設見学の活動を行ってきました。

① 各園の子どもたちの作品の送り合い

徳島・香川と距離が離れているということもあり、作品を送り合い交流することにしました。「敬老の日」には、豊島ナオミ荘に障がい児の子供たちが、おじいちゃんおばあちゃんの似顔絵をプレゼントして、歌を歌ったり会話をしたりと交流を行っています。似顔絵を飾っているのを立ち止まって眺める姿もあったようで、今後も続けていきたいと考えています。



② 豊島の2施設合同夏祭り

今年、神愛館が移転したこともあり3施設から2施設での夏祭りとなりました。不安がある中で、たくさんのJBフェローズの方々のお力添えを頂き、無事に夏祭りが開催できたのだと嬉しく思っています。

今年は、子どもと大人で「オセロゲーム」をやり、とても盛り上がりたくさんの笑顔が見られました。屋台も充実したものばかりで、皆さん楽しめられたのではないのでしょうか。

来年に向けて改善点もたくさんありますが、みんなが笑顔で楽しめる夏祭りが出来るように取り組んでいきたいです。



③ 長島愛生園「ハンセン病」研修

「ハンセン病」とは何なのかも知らない人がたくさんいると思います。そのため、今後もJBフェローズだけではなく多くの人が参加して、「ハンセン病」を知っていければと思います。

④ かがわ子ども・子育て支援センター神愛館・育愛館の施設見学

3月から、かがわ子ども・子育て支援センターが動き出しました。「見学してみたい」の声がたくさんあり施設見学を計画しました。神愛館・育愛館の見学と神愛館の子どもたちと触れ合いをしてもらいました。

四国の交流をもっと増やして、繋がっていけるように今後も意欲的に活動していきたいです。

報告：四国ブロックリーダー 神愛館 土草 香菜

大阪ブロック

2015年度の大阪ブロックの活動は

- ① 施設訪問を行うことで理解を深め、お互いの学びとする
- ② 職員通信を発行してつながりを深める
- ③ どのように震災復興支援を継続して行っていくかの検討をする

*今年度より意識的にJB担当でない職員も参加できるものは参加することで交流を深めたり、JBの取り組みを知れるようにしたい。この3点を中心に進めてきました。

① 施設訪問

◇ 「7月13日(月) 天使保育園公開保育」

本園(幼児)・ベビー(乳児)・虹の園(乳児)の3園に分かれて普段の生活や夏ならではの遊びを見たり、参加して行きました。お昼の時間には、職員の方と意見交換を行い、各施設の話聞くことでそれぞれの学びや刺激となりました。



◇ 「豊島合同夏祭り・長島愛生園研修」

四国、京都、兵庫ブロックとともに協力し参加させて頂きました。
今年度は初めて大阪ブロックの中でも参加する園もあり、今後も大阪ブロックでできることを考え取り組んでいきたいです。

◇ 「10月14日（火） 聖浄保育園公開保育」

運動会ごっこを行い保育の中に入って子どもたちと触れ合って身体を動かし、その後各クラスに入って生活の様子を見る事もできました。
お昼の時間には、7月同様に意見交換を行い学びや刺激となりました。

② 大阪職員通信第10号発行（10/14発行）

内容：・天使保育園公開保育見学報告

- ・豊島夏祭り報告
- ・各施設取り組み紹介
- ・キリスト教Q&A

大阪職員通信11号発行予定（2月中旬発行予定）

内容：・聖浄保育園公開保育見学報告

- ・ハンセン病研修報告
- ・各施設取り組み紹介
- ・キリスト教Q&A

③ 震災復興支援タオルについて

昨年度で目途がついているので今年度どのような支援の継続ができるのか意見を持ち寄り今後検討していく。

報告：大阪ブロックリーダー 天使保育園 江田真弓

表紙写真の解説



左上から時計回りに

- | | |
|--------------------------------|---------|
| ① 0歳児 この顔に癒されます | 天隣乳児保育園 |
| ② 葉っぱマンだあ？！ | 馬見労務保育園 |
| ③ 1歳児 「よしよし、ぽがついてるよ」 | 天隣乳児保育園 |
| 大きな枝の 折れる時 揺りかごが落ちる | |
| ④ ひとつの揺りかごも 落とさないように | ガーデン エル |
| ⑤ 「いっしょに行こう」 | 杉の子保育園 |
| ⑥ ミッションステートメント2009 | |
| ⑦ 葉っぱひらひら？！ | 馬見労務保育園 |
| イエス団沖縄平和研修で辺野古の新基地建設阻止のための | |
| ⑧ 海上行動に参加しました。平和をつくりだす働きの一つです。 | 京都ブロック |
| 敬老の日にナオミ荘のおじいちゃん、おばあちゃんに | |
| ⑨ 会いに行きました。 | 瞳保育所 |

編集後記

東日本大震災から5年が経とうとしています。2015年も各地で自然災害が発生し、尊い命が失われました。また、テロの脅威、国と国との一触即発状態など、人為的災害により尊い命が奪われています。日本では安全保障関連法案が可決されました。私たちは、神様の支配される域を超えてコントロールすることはできませんが、人為的行為は解決することが可能だと信じたいものです。イエスに倣って生きた創設者の賀川豊彦であれば、この状況をどう考え、行動するか、今私たちに問われていることではないでしょうか。

今年も多くの方々に支えられ折られて歴史を刻んできたこの創立記念日（12月24日）にイエス団報第18号を発行することができる恵みに感謝するとともに、イエス団に連なる皆さんのご理解とご協力に感謝を申し上げます。

イエス団報編集委員会イエス団報編集委員会